

時を重ね、こころを紡ぐ

心理臨床センター副センター長 毛利 真 弓

今年、同志社大学は創立150周年という節目の年を迎えました。長い歴史のなかで、多くの人々が「良心教育」という建学の精神を礎に学びを深め、社会へと歩みを広げてこられました。その歩みの一端として、心理臨床センターも15年の歴史を重ねることとなり、これまで支えてくださった多くの先達のご尽力に思いを馳せながら、深い感謝とともにこの節目を受けとめています。

心理臨床センターは、大学院生にとって実践を通じて学ぶ貴重な場であり、また地域の方々にとっても身近な相談の窓口としての役割を担ってきました。臨床の現場では、大学院生が人との出会いや関わりを通して支援の難しさと温かさを学び、指導相談員や多くのスタッフの支えのもとで専門家としての基礎を築いています。その姿に触れるたびに、学びと成長が響き合うこの場の尊さを感じます。

本学が掲げる「良心教育」という言葉には、時を超えて大切にされてきた精神が宿っています。時代に応じた心理支援のあり方や心理臨床センターの役割、学生指導の方法を模索する中で、時を超えてその精神をどのように受け継ぎ、日々の実践に生かしていけるか、自問自答しながら取り組んでいます。理念を簡潔に語ることは容易ではありませんが、そこに込められた「人を思うまなざし」や「誠実に向き合う姿勢」が、私たちの臨床と教育の営みの中に息づいていくことを願っています。

創立150周年、センター開設15年という節目を迎える今、これまで支えてくださった多くの方々への感謝を新たにしながら、人と人とのつながりを大切に、これからも静かに歩みを続けていきたいと思えます。

今後とも、同志社大学心理臨床センターへの温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

